…分所が違反 2
…阪南福祉事業会㊤ 2
…へPSW協会が呼び掛け 3
…けて県議会傍聴 4

週刊 福祉新聞
THE FUKUSHI SHIMBUN
2018年（平成30年） 7月2日 月曜日発行
発行所 福祉新聞社 〒100-0013 東京都千代田区 電話 (03) 3581-0431 ww

障害者ら豊かな人生

総務省検討会 包摂的社会の構想

あいさつする野田大臣（中央）

総務省の情報通信審議会（総務大臣の諮問機関）の検討委員会は6月22日、情報通信技術（ICT）の活用により、障害の有無や年齢などにかかわらず豊かな人生を享受できる「包摂的な社会（インクルーシブ社会）」の構想をまとめた。今後、意見募集を経て8月下旬に同審議会が野田聖子大臣に答申する。（福田敏克）

検討委員会は「人づくり」をキーワードとした「スマートインクルージョン構想」を打ち出した。高齢者らがICT機器の活用を気軽に相談できる人材として「ICT利活用推進委員制度」を創設する。また、ICTを学びあう「地域ICTクラブ」の拠点として、社会福祉協議会や児童館などを活用する。2040年までの実現を目指し、関係省庁や高齢者、障害者の団体で構成する「スマートインクルージョン実現推進会議」（仮称）で具体化を進める。

人口減、労働力不足といった社会構造の変化を踏まえ、高齢者や障害者の社会参加、就労を後押しする。同日の検討委員会に出席した野田大臣は「障害者団体からのリクエストが一番多かった。これは財産になる。日本には使われていない力がまだまだある」と話した。

検討委員会名は17年11月発足の「IoT新時代の未来づくり検討委員会」（主査＝村井純・慶應義塾大教授）。「人づくり」のほか「地域づくり」「産業づくり」を軸に政策パッケージをまとめた。

「人づくり」の視点から目指す姿の例として「健康100年ボディ」（補助アームを装着し、関係部局や地域包括支援センターなどと連携して届け出の促進や適切な指導監督を行うよう再度要請した。

また未届け施設の把握方法を分析し、同一住所に複数の訪問介護サービスの利用者がいる場合、入居者保護のための事業停止命令の創設や施設情報の年に1回以上の報告義務付けなど、指導監督の仕組みが強化された。（榎戸新）

有料老人ホーム 未届け196件、新たに 効果的な把握 進む

総務省は6月19日、厚生労働省に未届け有料老人ホームの把握や届け出促進などを求めた勧告に対する改善措置状況を公表した。未届け施設の把握方法や疑いのある施設の判断の仕方を整理し都道府県などに伝えたことで2017年度に新たに把握した未届け施設は前年度比127件増の196件になった。

勧告は16年9月にされた。有料老人ホームは全国に1万6627カ所（15年時点）あるが、未届け施設が16カ所（16年1月末時点）あったり、入居者への不適切な処遇や入居一時金のトラブルが起きたりしている。

勧告を受けた厚労省は都道府県などに対し、関係部局や地域包括支援センターなどと連携して届け出の促進や適切な指導監督を行うよう再度要請した。

また未届け施設の把握方法を分析し、同一住所に複数の訪問介護サービスの利用者がいる場合、入居者保護のための事業停止命令の創設や施設情報の年に1回以上の報告義務付けなど、指導監督の仕組みが強化された。（榎戸新）

抜本策の検討指示

…虐待死

会議は各府省庁の局長級ら幹部で構成。事件をめぐっては、結愛ちゃんが以前住んでいた香川県の職員が参加する予定。県は早ければ年内にも取りまとめの報告を行う方向だ。（時事）

農福連携 広がる

群馬の障害事業所 園児が田植え

泥だらけになりながら苗を植える園児たち

群馬県前橋市の障害者福祉サービス事業所「菜の花」（就労移行支援・就労継続支援B型）の田んぼで6月22日、近隣の市立清里保育所の園児が田植えを体験した。梅雨の中休みで強い日差しが照りつける中、園児は泥だらけになりながら元気いっぱいに楽しんだ。

初めに田植えの説明を受けている時は緊張した面持ちだった園児だが、はだしになって田んぼに入ると「冷たくて気持ちいい」「足が抜けない」「カエルがいる」などの声が飛び交い、次第ににぎやかに。ぎこちなかった田植えも慣れてくると「早く苗をちょうだい」と、あちこちで連呼。尻もちをついたり泥だらけになりながら苗を植える園児たちの姿があった。

手形をつけてみたり、泥遊びも満喫した。

菜の花を運営する社会福祉法人ゆずりは会の関根嘉明理事長は農家出身。2006年4月の設立時から農業を続け、現在、五つの事業所で米のほか、玉ネギ、枝豆、ほうれん草など約10種の野菜を栽培している。菜の花では地域の農家に稲苗を販売したり農業生産法人と共同栽培したりして農福連携事業が広がり、17年度の売上は1200万円を超えた。

法人の理念は「高工賃と就労支援」。農業は作業を細かく分けることができ、障害や個性に合う仕事を生み出せる。小淵久徳・管理者は「職員が利用者に適した仕事を考える。少し負荷のある仕事にみんなでチャレンジしていく意識で取り組んでいる」と話す。現在の平均月額工賃は4万円。各利用者の働きぶりを工賃に反映させる仕組みも取り入れている。

園児が植えたのはもち米の苗。農薬や肥料を使わない自然栽培で育て、利用者は除草作業などをして、秋に収穫する。来年正月に園児や地域住民と一緒に餅つきをする予定だ。（榎戸新）

9割が奨学金とバイト

厚労省調査 保護世帯の大学生

厚生労働省は6月25日、生活保護受給世帯出身大学生の生活実態に関する調査結果を公表した。それによると、進学後に奨学金を利用している割合は86・5%で、日本学生支援機構による学生一般を対象にした調査結果（約49%）と比較して突出していることが分かった。さらに、アルバイト実施率も83・3%と高く、親からの仕送りに頼れず、生活費の捻出に苦労している実態が浮き彫りになった。

調査は、2017年4月1日時点で大学、短大、専修学校、各種学校に在籍している学生のうち、各自治体の福祉事務所のリストから学校区分や国公立・私立ごとに対象を抽出して実施した。有効回収数は8・7%、生活福祉資金14・1%。年間収入割合は、奨学金（60・8%）とアルバイト（36%）がほとんどを占めており、家庭からの給付はわずか3・1%だった。

アルバイトの実施率は83・3%で、1カ月当たりの平均日数は14日。20日以上働いている学生も17・2%おり、月の半分近くを生活費の捻出に費やしていることが分かった。（濱本高佑）

高齢者や障害者を支援する技術開発を進め…

議…（仮称）に部会を設けて議論する。…大教授）といった意見も上がった。

三省帖

今年も半分終わった。世相を表す漢字を挙げるなら「暴」だ。大相撲では力士が付け人を殴り、日本大学のアメフト選手は指導者の指示を受けたとして悪質タックル。連日、「暴力」がニュースとなった▼「暴く」も目立った。森友学園問題では財務省が公文書を改ざんしたことが明るみに。同省事務次官による女性記者へのセクハラ発言は、その音声がお茶の間に流れた。愕然とする出来事だが、闇に葬られなかったことはよしとしたい▼「暴」は動物を裂いて太陽にさらす姿からできた。もともとは「日に当てて乾かす」という意味を持つ。その字源の尊さを教えてくれるのが『当事者が語る精神障がいとリカバリー』（YPS横浜ピアスタッフ協会、藤山正子編著／明石書店）だ▼家族に暴力をふるった本人たちの語りを収めた労作だ。病気のつらさを分かってもらえないつらさ、医療での傷つきなどが潜伏し、暴力という「SOS」で表面化する。だから、そうならないよう「助けて」と自分をさらしやすい環境をつくることが大切だと唱える▼先ごろ…